

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成 27 年度第 4 回小金井市廃棄物減量等推進審議会	
事 務 局 (担 当 課)		小金井市ごみ対策課	
開 催 日 時		平成 27 年 12 月 21 日 (月) 午後 6 時から午後 8 時まで	
開 催 場 所		小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室	
出 席 者	委 員	<出席者：11 名> 渡辺会長・大江副会長・岡山委員・加藤委員・降旗委員・波多野委員・多田岳人委員・多田典子委員・北澤委員・勝又委員・鶴田委員 <欠席者：2 名>	
	事 務 局	中谷環境部長、小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・穂山・佐藤・玉井	
傍聴者の可否		可	傍 聴 者 数 0
会 議 次 第		1 開 会 2 報 告 燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について 3 議 題 平成 2 8 年度一般廃棄物処理計画の策定について (審議) 4 その他	
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり	
提 出 資 料		別添のとおり	
そ の 他		次回開催予定 平成 28 年 1 月 26 日 (火) 小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室	

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>これより平成27年度第4回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>豊田委員から欠席の連絡が入っている。</p> <p>先ず、事務局から配布資料の確認をお願いしたい。</p>
富田減量推進係長	(配布資料確認)
渡辺会長	<p>前回の審議会の会議録の確認とすることで、机上配布で2点ほどあるがこれ以外にご意見・修正等はあるか。無いようなので机上配布の修正後、事務局に公開手続きをして頂きたい。</p> <p>では、事務局より提出された資料についての報告と説明をお願いしたい。</p>
富田減量推進係長	(提出資料説明)
渡辺会長	今の説明に関してご指摘・質問等はあるか。
加藤委員	燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較だが、11月の同時期までを見ると家庭系ごみは47.3トンくらい減っている。しかし、事業系ごみは61.6トン程増えている。従来は事業系ごみは減って、それがごみ減量の数値に貢献していた。何故増えているのか説明して頂きたい。
小野ごみ対策課長	事業系ごみが増えているのは、事業者が増えており、特に駅周辺に商業施設が出来たことによって増えている。12月にオープンした店舗もあるので来月以降、更に増えるだろう。
渡辺会長	市の収集に入っているのか。
小野ごみ対策課長	駅周辺施設は入っている。
加藤委員	駅周辺は生ごみ系が多い。
小野ごみ対策課長	一部の駅周辺施設の生ごみは食品リサイクル法に基づく事業者へ運搬して資源化を図っている。しかし、別の一部の方は、食品リサイクル法に基づく分別をしていないので、小金井市の支援先の焼却場へ持って行っている。今後、分別が始まればそちらの方も資源化を図ることになるだろう。
渡辺会長	では、議題に入る。平成28年度一般廃棄物処理計画の策定についてだが、前回の審議を整理すると、一つは目標量の設定について、素案では、一般廃棄物処理基本計画に基づいて、1人1日当たりの排出量の目標値に人口を掛けて数字を出している。それに対して実際は燃やすごみの量が微増しているのに、総体的にも減少するような計画になっていて大丈夫なのか。実績に基づき、実際値に近い数字を出したほうが良いのではないのかという意見があった。一方では、広域支援の関係からも努力姿勢も加味し

審議過程（主な発言等）

<p>加藤委員</p>	<p>た目標量を設定すべきとの面もある。施策の立て方については、実施計画案に列挙されている中でどれに集中して取り組むのかを精査してピックアップするというようなアプローチの提案と、特に可燃ごみを目標に近づけるためにどのような方策を模索するかを検討するようなアプローチが挙げられた。また、将来共同処理開始時のために、研究を進めていくという提案もあった。</p> <p>先ず、目標数値の設定方法だが、今後の議論する前提として固めておいたほうが良いと思うので、審議頂きたい。</p> <p>基本計画の整合性というか踏襲もあるので素案のままでも良いのではないかと思うのだが、計画処理量に関して何か意見はあるか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>数値の設定よりもどのようにして目標に近づけるかが大事だ。減量目標と実際は乖離しているところがある。目標を達成するための施策が必要だ。集合住宅の大型生ごみ処理機の今後のこともある。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>基本的には計画数値に関しては、去年基本計画を作ったところなので、基本計画を踏襲した路線のこの数値で進めていきたい。</p> <p>では、具体的な施策についてご意見はあるか。</p>
<p>北澤委員</p>	<p>大型生ごみ処理機の利用者の方とは、市のリース期間終了後の扱いについて、今後も意見交換をさせて頂く。生ごみとして分別収集するモデル地区として、専門の処理施設に持って行くことについても引き続き研究する。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>基本計画の組成分析の結果だが、過去の資料を見ると燃やすごみの6割近くが生ごみなので、ごみの減量となると生ごみを減らすしかない。</p> <p>うちは土曜日に学校の生ごみ処理機へ持って行っているが、うちの燃やすごみはとても重い。ペットのトイレシートを燃やすごみに入れるので、相当重くなる。ペットも増えているので、尿を吸収するポリマーを資源化出来るようにすれば減量に繋がるのではないか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>組成分析の話で言うと、資源化出来る物が3割程入っているので、資源化出来る物を分別できれば、資源化ルートに乗るので、吸湿剤とかは可能性があると思うが、新たに開拓しなくても焼却ごみから除けるものが結構あるのではないか。</p> <p>24年3月の委託調査によると、戸建て住宅の可燃ごみに占める厨芥類は66.1%、紙類は8.3%、家族向け集合住宅でも厨芥類は48.4%、紙類は14.7%、単身者向け住宅は厨芥類が37.2%、紙類は23%。単身者向け住宅は紙類の分別が悪いことが多いので分別を徹底できれば、可燃ごみの減量が出来たろう。小金井市の3分の2は戸建て住宅や家族向け集合住宅なので、ここの厨芥類を除いての減量は有り得ない。ペットシートや紙おむつについては、戸建て住宅は5.7%、集合住宅が9.5%。これから増えていくので、調査・検討する必要があるだろう。</p>

審議過程（主な発言等）

岡山委員	駅周辺商業施設には、生鮮を扱う店が入っているのか。
小野ごみ対策課長	入っている駅もある。
岡山委員	食品リサイクル法上、年間100トンを超えればリサイクルする義務が生じてくるので、武蔵小金井駅周辺でも生鮮食品を扱う店があれば、生ごみは事業者自ら処理して貰うほうが良い。その他、市内で大規模なスーパーマーケットがオープンした例があるか。
渡辺会長	大規模事業所は市の収集にならないので市収集の実績には入らない。
小野ごみ対策課長	市内の事業者には、収集業者を通じて民間の処理施設へ持って行って貰っている。そこから市が広域支援先をお願いしているところへ持って行かざるを得ない収集業者に乗り換えている事業者が何社かある。その差し引きと今回の駅周辺施設の開業の関係で増えている。
岡山委員	やはり生ごみが一番重いので、少しの減量でも大きな効果が期待出来るだろう。事業系が増えているので、どうすれば減らして貰えるか、今年度は重点的な施策にするのはどうか。例えば14、15ページの施策のところの4の循環システムの構築の生ごみの有効利用に向けた調査・研究とか、可燃物に混ざっている資源物を、いかに資源化へ回していくか重点的にやっていくというようにすると良いのでは。11ページの計画と3ページの今年度の実績を見たときに、燃やすごみが減っていくのに対して、資源化の目標はどんどん高くなっているにも関わらず実績は減っていている。出来るだけ実績と目標・計画を沿わせていくようにするのであれば、燃やすごみの中の資源物を、いかに資源化を図れるかというところの施策を、優先度を高めて進めて行くのも良いのではないか。
渡辺会長	小金井市は極端に事業系の割合が少ない市なので、これ以上減らすというのはなかなか難しいのではないか。
波多野委員	事業系は、分別はするだろうが、営業時間内にごみの水分を切るというのはなかなか難しいだろう。
加藤委員	事業系が極端に少ないのは、通常とは違って広域支援という状態で民間をお願いしていることで少ない。おむつについては、滅菌乾燥してペレット化する、サーマルリサイクルとか、固形燃料化するという方法とか、パルプが非常に良いのでパルプをプラスチックと残渣に分けて処理するような方法があるようだが、これは大型の施設になるので小金井だけでは難しい。しかし調査・研究の対象になると思う。ごみ対策課は研究しているのか。
小野ごみ対策課長	紙おむつの関係だが、基本計画を作ったときの組成分析の中で

審議過程（主な発言等）

加藤委員	<p>も、家庭から出る紙おむつの割合が高いので、燃やすごみではない形にすれば相当の量が減ると思う。ただ、現時点において紙おむつを資源化する機械と工場は西日本にしかないので、距離的に遠くて高額な費用を負担しなければならないため、実現に向けての具体的な案は出来ていない。引き続き研究しながら、事業者の話を聞いて、良い方法を模索していく状況だ。</p> <p>枝木や落ち葉を戸別収集の検討という記載があるが、いつ頃を予定しているのか。一時回収量が多かったが、減って来ているので、可燃ごみに入ってきているのではないか。</p> <p>先日、ごみゼロ化推進会議で多摩市の中間処理施設を見学した時に、発生抑制という観点から、自家処理用の小型剪定枝の機械を貸し出したり、塩ビの袋に入れて資源化したりという例もあった。発生抑制の対策として、自家処理をして出さないことが大事だが、市としてはどうか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>枝木類の回収方法の見直しについては、今、申込み方法が複雑で分かりにくいという声があるので、戸別収集をやるかどうか検討をしているところである。また、枝木類の発生抑制だが、出来る限り申込みして頂いて資源化を図りたい、一方、落ち葉を庭に埋めている家庭も沢山あると聞いているので、引き続き啓発活動によって協力頂きたいという形でお知らせするしかない。</p>
加藤委員	<p>多摩市のように小型のチップ化する処理機を市が購入して貸し出すという考えは未だ無いのか。</p>
小野ごみ対策課	<p>これから研究しなければならないと思うが、他市の事例を把握していない。</p>
岡山委員	<p>先程、団地の生ごみ処理機がリース切れのために廃止するという話があったが、施策に大型生ごみ処理機の補助があるので、これを使えないのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>可能なので両団地には提案をさせて頂いている。しかし、両団地ともに賃貸住宅なので、補助金を使っても高価な大型生ごみ処理機の設置はハードルが高い。</p>
岡山委員	<p>所有者の意向か。</p>
小野ごみ対策課長	<p>所有者は、地方公共団体等なので協議はしていない。</p> <p>イメージとして、生ごみ処理機があるので、毎日いつでも24時間生ごみを捨てられるというのが、入居者にとって良いサービスであると理解されれば、所有者は多少負担があったとしても結果的に入居希望者が増えるという判断にはならないのか。</p> <p>そこまで考えが至っていなかったので参考にさせて頂きたい。</p>

審議過程（主な発言等）

加藤委員	<p>大型集合住宅の所有者は1つは独立行政法人、もう1つは都営なので検討は可能だと思う。公務員住宅については、設置台数が少しずつ増えている。今、7基だがもっと増やせるのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>ファミリータイプの棟は、1棟に1台ハイブリット式16キロタイプを設置しているので、これ以上増えない。毎日全世帯が入れると溢れるので、それぞれ工夫して頂いている。そこから出た乾燥物は市が回収して堆肥化している。</p>
渡辺会長	<p>市が大型生ごみ処理機を設置している集合住宅は、既に生ごみの分別が出来ているところなので、何らかの形で継続したいところだ。もう少し計画に分かる形で入れられないのか。また、実施計画の記載表現だが、施策について重要なのは、最優先強化などの取組み項目であるが、各々の具体の施策が目立つようになっているので、表現の仕方を検討したほうが良いのではないか。</p>
岡山委員	<p>新可燃ごみ処理施設の方向性が出て、市民にも安心というか気の緩みがあるのかもしれない。先ほどの大型集合住宅の方々がどう考えているのか聞き取り調査をしても良いのではないか。生ごみに取り組んでいる市民団体と組んで、どうやれば上手くいくのか、どうやれば市民に伝わって行動に繋がるのか、調査・研究する小委員会を立ち上げてはどうか。</p>
渡辺会長	<p>細かい内容は、計画でもここに生ごみの有効利用に向けた調査・研究とだけ書くのではなく、具体的に書いた方が良いのではないか。</p>
北澤委員	<p>ここに書いてある、生ごみの有効利用に向けた調査・研究と言うのは、何をやるかということによって挙げているのか。どういう方向性を持ってこれを施策の一つに立てたのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>久喜宮代衛生組合のHDMシステムの導入について調査・研究するという陳情が採択された。協議は重ねたが実現には至らなかった。その後、別の陳情で生ごみを分別回収して、堆肥化等に回るという部分が主旨採択された。生ごみに関しては、総合的に他市の事例等も調査・研究していきながら、私たちが出来ることを実現に向けて努力していきたい。</p>
加藤委員	<p>これに関しては、調査・研究しているので、後はどう導入していくか、実施に向けた調査・研究が必要ではないか。</p>
小野ごみ対策課	<p>個別のシステム名を挙げて明記すると、検討段階で選択肢が限定的になってしまうため、幅を持たせた表現としている。様々な生ごみに関する施策は調査・研究し、実現可能なものは実現に向けて努力していくということで記載させて頂いていることをご理解頂きたい。</p>

審議過程（主な発言等）

加藤委員	ふれあい収集だが、身体障害者など要介護者とその他市長が認める者が対象だが、今はその他が増えている。ふれあい収集とまではいかななくても、分別が困難な人が増えている。お年寄りの単身集合住宅もあるので、高齢者のごみの分別指導は重要なテーマだと思う。
小野ごみ対策課長	分別の協力をお願いしているが、前回の審議会でも話しにあったが、都内からの転入者は、不燃のあらゆるものを、燃やすごみに出している可能性が高い。そこで、委託先の収集業者さんが他の物が入っている場合は、収集が出来ない旨の張り紙をしてごみを置いて来ている。それを見た市民から問い合わせがあり、電話対応若しくは、現地で許可を貰って職員がごみ袋を開けて丁寧に指導をしている。加藤委員のご指摘のように、そうやっても未だ出来ない方がいることは、私達も認識している。そういう方々には繰り返しお願いすると同時にふれあい収集制度を御紹介している。その方々を支援している人がいるならば、その人に分別をお願いせざるを得ない。分別が徹底されていないものは、どういう方であっても収集しない。
加藤委員	民生委員や包括支援センターの人が手伝っていると思うので、市もそういった人たちと協働して、サポートする必要があるのではないかな。それが分別の徹底に繋がると思う。
岡山委員	独居高齢者の中でも、スーパーなどで買い物をする方などは、分別は出来るのではないかな。びん、缶、ペットや紙は難しい話ではない。難しいのはどの品目だろうか。
渡辺会長	特に23区との違いはプラではないかな。あとは可燃に混入する紙類だろう。難しい話ではない。やはり分別の徹底は重要だ。
岡山委員	施策としては、この中には優先順位はないが、今年度の重み付けはこのようなところに置くというようにして、取敢えずは11ページの数字で行くが、私たちの気持ちとしては、燃やすごみをこの数字まで頑張ろうというのであれば、燃やすごみの中から、いかにして資源化し得るか検討する、という理解で良いのではないかな。
渡辺会長	数字のやりくりになる懸念もあるが、ごみを減らす見積もりを出すのも1つの見える化ではないかな。
岡山委員	調査・研究して、実際問題動かせるものは施策に反映させることが出来れば努力が見えるのではないかな。
渡辺会長	計画項目のところに最優先強化・強化充実等、一応優先順位と取れるようなフラグが付いているので、このままで良いのかと言うのも現在の検討事項だと思う。最優先強化となっているもので言うと、ごみを出さないリデュースは外しにくい。共同処理に向けた整備、廃棄物関連施設の整備も

審議過程（主な発言等）

<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>重要だ。廃棄物関連施設は一部、移転の必要もあるようなので、何らかの動きは始めていかななくてはならないのではないか。</p> <p>17ページ（2）安心・安全、安定的な収集運搬の推進3の廃棄物関連施設の整備だが、貫井北町の間処理場は大規模改修をしてから10年が経過しており、かなり老朽化が進んでいるので、何とかしなければならない。また、中町に缶・ペットの間処理施設と古布のストックヤードがあるが、庁舎建設用地になっているので、暫定施設となっている。それから、二枚橋焼却場跡地の活用を検討して行かなければならない。市の総合計画の中で、平成28年度から32年度までの5年間の中期財政計画があり、そこに清掃関連施設の整備の計画を作らせて頂くということで掲載されている。未だ、確定していないが、28年度の予算要求はしている。28年度から再整備に関して具体的な仕事を行っていく。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>28年度の予算で中間施設のアウトラインが出ると考えて良いか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>来年、再来年で策定する予定である。予算編成の最中なので、確定するまではあくまでも担当部局の考えと言うことになる。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>最優先強化項目だが、これと（1）の発生抑制を最優先として3Rの推進の施策の中で一番施設整備と関連するのはどれか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>資源循環システムの構築と、ごみを出さないライフスタイルの推進、リユースの推進、分別の部分は大きく関係する。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>具体的に物理的に関わるところの一番中心的なものはあるか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>移転をするので、施設の規模等を検討して行かなければならないと思うが、将来のごみの内訳等々も精査した上で、人口推計もあるが施設規模も定まってくると考える。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>そうすると28年度にやるべきことが見えて来る気がする。我々がこれを作ってくるときに最優先強化として出した施策の1であったり、安心安全のところの共同処理施設の整備であったり、中間処理施設の整備を最優先にしてきたので、安心安全の2、3の方向付けがかなり進んできている。具体的にこういう事をやっていくということが出てくると、進め易くなるような気がする。岡山委員がおっしゃった調査・研究というのも、どの調査・研究をしなければならないのかということ、施設整備との関連でここは重点的にやろうということが見えてくるので、これからに向けたところも含めていかなければならない。事務局のほうで見えているところを次回出して頂いて、この辺に筋道を付けていこうというのがあると、施設と関連して早くやらなければならないというところが見えてくる。試案で良いので是非出して頂いて、皆さんにチェックして頂くと良いと思う。</p>



審議過程（主な発言等）

渡辺会長	物理的な話で言うと、中町の生ごみ堆肥化実験施設で行わず、他へ持って行くという話があったと思うのだが。
小野ごみ対策課長	平成27年度からあそこでは乾燥物から堆肥は作っていない。今後、必要になってくるのは、集めた乾燥生ごみの置き場所と作った堆肥の保管場所だ。
加藤委員	廃棄物関連施設の再配置と言うのは、中間処理施設の問題だけでなく、新可燃ごみの処理施設の整備との関連がある。2トンのパッカー車ではなく10トン車への積み替えについて検討するのか。
藤田ごみ処理施設担当課長	積み替えについては、国から指針が出ている。ある程度以上の距離になると積み替えをした方がメリットがある。約18～20キロと言われている。本庁舎から日野市まで11.8キロなのでメリットとしては弱いために積み替えをする考えはない。
多田岳人委員	積み替えをすると燃料費や人件費を抑えられるのではないかと。
藤田ごみ処理施設担当課長	国が出している18～20キロと言うのは、1日に何往復できるかが問題だ。18キロを超えると1日に2往復しか出来ない。それ以内であれば3往復出来る。そういうコストが一番違う。どこで積み替えるのかという問題もあるので、トータルコストを考えると、積み替えをしないで搬送した方が安い。また、搬送は30年続くので、コスト面も重視している。ごみの減量が進めば台数も少なくて済むのでその辺も含めて対応させて頂きたい。
大江副会長	環境配慮的な検討の中で、プラスアルファの部分がないと駄目だ。相互的に情報が共有されて、納得していけば歩み寄れる。長期的計画を立ててパッカー車の整備をするなど、準備も必要になるだろう。
藤田ごみ処理施設担当課長	日野市や国分寺市の担当部局とは、連携していく体制は整えている。十分に環境に配慮して検討を重ねて行きたい。
渡辺会長	最終的には、計画に落とし込まないといけないので、どのように盛り込むかという辺りを考えなければならない。
北澤委員	提案だが、色々な施策の中で、ごみを減らすというのは、生ごみに行き着くので、資源循環システムの構築の中の検討・開始の項目に入ると思う。最優先強化課題として生ごみの処理機械も含めて生ごみの効率的な収集及び有効利用に向けた調査・研究と言うことで、小委員会等を作って研究すると言う様なことを挙げてはいかか。そうすると全体的な生ごみに関する32年度以降のにらみも含めた上で、どうするのかと言うのがある程度出てくるのではないかと思う。

審議過程（主な発言等）

大江会長	29年度にその中からやるのも施策に繋がる。32年度以降のことも検討していけば本当の調査・研究になってくる。是非、お願いしたい。
渡辺会長	では、生ごみに関しては、最優先強化と言う形にすると言うことで良いか。
北澤委員	生ごみに関して、高率的な収集、有効利用に向けたものをもう少し突っ込んで検討し、どれが一番良いのかと言うのが良いのではないか。
加藤委員	平成24年度の組成分析の委託調査結果と分析をもう一度、見直すことも、意味があるのではないかと思う。
岡山委員	15ページは循環システムの構築なので最優先強化の中に(6)未活用資源とある。燃やすごみに混入している資源物の資源化に向けた検討と捉えるのが良い。14ページにも水切り、乾燥、自家処理というの也被まれている。
小野ごみ対策課長	平成24年度の組成分析の後に、一般廃棄物処理基本計画の策定にあたって行った組成分析の結果もある。年数が経過してしまっているの、必要な部分について参考資料として次回提出させて頂きたい。
渡辺会長	組成調査に関しては、どの方法が一番が良いかと言うのは、難しい。計画としては最優先強化となっているところをもう少し具体的に内容を加えるというところか。
大江副会長	内容を加えなくても、やっていく内容がどこかで分かれば良い。基本計画に基づいて2年目の実施計画なのでやや抽象的な部分もあるが、方向付けとしてより明確に分かれば良い。随時と言うのは、分かりづらい。随時と言うのはどういう意味かどこかに表示はあるのか。
富田減量推進係長	27年度施策の自己評価の中間報告での位置付けとしては、相談や申請に対応する場合や、適時取組む場合など数値評価が困難な場合は随時と言う表現を取らせて頂くことで定義づけをした。
降旗委員	以前、大江副会長から処理施設の白煙防止の件について出たが、私達は24年2月に焼却施設である川越市資源化センターを見学した。ガス化方式だが、その施設には最終的な排気ガスの排出に白煙防止用の装置を地域の要望で取り付けた。白煙と言うのは、外気温と排気ガスの温度差で出るので、白煙防止用送風機と空気加熱機でコントロールすれば白煙は見えないう処理方法らしい。こういった検討はされるのだろうか。
大江副会長	環境省からは、白煙防止装置は付けないとなっている。白煙自体は蒸気なので問題ない。その方がエネルギーを無駄にしないし、そういうところにお金を掛けないというところもあるだろう。

審議過程（主な発言等）

加藤委員	<p>武蔵野市やふじみ衛生組合もそうだが、寧ろ建設費用の圧縮面も含めて、市民側から意見が出たので、計画は白煙防止装置を付けるということだったが、実際には付けていない。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>白煙防止装置の話だが、現時点では付けないということで進んでいる。地元の方々の意見を聴かなければならないが、現状では付けない方向だ。</p>
渡辺会長	<p>計画に入れるとなるとどこまで具体的に書くかとかの問題になるので、今日はアイディアを出して頂いて、事務局で整理して次回出して頂きたい。加えたら良いものとか書き換えたら良いとかの意見はあるか。</p>
岡山委員	<p>先程の北澤委員の提案が具体的で良いと思う。15ページの循環システムの構築の最後の検討・開始になっているものを最優先強化に変えて、(6)が例えば今は未活用資源の有効利用になっているが、生ごみの有効利用に向けた調査・研究に加えて、可燃ごみに混入している資源物の資源化の調査・検討とかにはいかがか。</p>
大江副会長	<p>それをやる小委員会に関して具体化をするのはどうか。</p>
岡山委員	<p>生ごみの有効利用に向けた研究が随時となっているが、これは今回そのままにして、来年度の評価のとき実績として反映できればよいと思う。</p>
渡辺会長	<p>次回は、今日の検討結果を反映した改定案を事務局から出して頂きたいので、そこに入れるために他に意見は無いか。</p>
加藤委員	<p>4～5年続いている土曜生ごみ投入だが、市民に定着しているが支援と言う形であって、市の事業としては位置付けられていない。もっと前を向いて頂ければ、学校の処理機を更に有効利用出来て、しかも資源化も出来るので、やっている人たちのモチベーションにもなる。インセンティブは市民の励みになるので、検討委員会の中でもそういうことを含めてお願いしたい。</p>
渡辺会長	<p>計画・項目に入れるとすれば、4の資源循環システムの構築の4が生ごみ堆肥化事業の推進になっているので、注釈として既存の学校での収集とか推進を位置付けることが出来るのか。</p>
岡山委員	<p>先ほど、計画・項目でと言う言い方をしたが、加えるのであれば施策の方にも可燃ごみに混入している資源物の資源化の検討という項目が必要になるのではないか。</p>
渡辺会長	<p>大型生ごみ処理機を止めたところの何らかのフォローの検討も必要だ。モデル事業でやるという考え方もあるようなので、是非推進して頂きたいという感じがする。</p>

審議過程（主な発言等）

加藤委員	<p>今度の計画は啓発を重視することになると思うが、年15回のキャンペーンが年1回になったり、第二庁舎1階で上映していた転入者向けDVDの上映が、他の事業のために廃止されたりしているが、これで啓発活動の強化について、どうだろうか。</p>
渡辺会長	<p>委員の方で良いアイデアがあれば、事務局に提案したいところだ。</p>
加藤委員	<p>非常事態宣言が続いていながら、3市の共同処理の問題が進んでほっとしている面もあるので、ごみ減量に影響しているのではないかと。啓発の工夫は危惧される。</p>
渡辺会長	<p>今日の審議はここまでとする。次回は今回の議論等を反映させた計画案を事務局から出して頂いて、1月と2月の審議会で結審を目指して詳細を詰めていきたい。次回は1月26日火曜日18時から801会議室で行う。</p>
小野ごみ対策課長	<p>1月26日は16時30分からごみ・リサイクルカレンダーの表彰式をここで行うので、可能な方は是非来て頂きたい。</p>

以上